令和６年度九州地区高校生介護技術コンテスト（長崎大会） アンケート結果まとめ（概略版）

【アンケート実施の目的】

本アンケートは、「九州地区高校生介護技術コンテスト」にエントリーした生徒が「何を学び、何が課題か」を自己評価したデータをもとに、学びや成果の実態を可視化し、今後の取り組み・コンテストの発展や改善に活かすことなどを目的とする。

ひいては福祉・介護を学ぶすべての生徒たちの福祉・介護教育の現場での取り組みの改善や指導の見直しにつなげることなどを目的とする。

【背景と経緯】

〇全国高校生介護技術コンテストは平成 23 年度の鹿児島大会をスタートに、過去 11 回開催され、九州地区は 1 校のみが受賞する最優秀賞 8 回・2 校が受賞する（第 1 回大会のみ 4 校だが、すべて九州地区）優秀賞 9 回という類を見ない非常に高い実績を持つ。

〇九州地区高校生介護技術コンテストは平成 26 年度の熊本大会をスタートに過去 11 回開催され、10 年の節目をこえた今、これまでの生徒、教員、福祉・介護現場などの関係者による学びの成果を整理し、今後の発展や改善に向けた指針を得る必要があった。

〇全国福祉高等学校長会事務局が「介護福祉士養成課程における修得度教科基準の策定等に関する調査研究事業報告書」より項目を参考資料として用い「さんフェア福井第12回全国高校生介護技術コンテスト」で実施したアンケートを一部改編し、九州地区版として活用。

【実施方法・概要など】

〇令和６年度 九州地区高校生介護技術コンテスト（長崎大会）にエントリーした８校 29 名を対象に、コンテスト終了後 QR コードから学びの実感や課題などに関するアンケートを Google フォームで回答。

【アンケートの構成など】

アンケートは以下の４つのカテゴリーで自己評価（4段階）と自由記述による多角的な構成となっている

1. 学習レベル編：
   介護に必要な７区分の能力、28の【能力】についての度合いを質問（人権理解、心身対応力、チーム連携力など）
   ※事前学習編と比較するうえで、課題を受け取る前の回答実施が望ましい
   …各県代表が決定次第提示し、課題発表前までに回答（令和７年度より予定）
2. 事前学習編：
   学習レベル編と同じ7区分の能力、28の【視点】についての度合いを質問+取り組みについての4つの質問
   ※学習レベル編と比較するうえで、課題を受け取り後、コンテスト前までの取り組みをふまえた回答実施が望ましい
   …課題発表後と同時に提示し、コンテスト前までに回答（令和７年度より予定）
3. 課題検討編：
   事例検討の過程における、能力・視点をふまえた取り組み姿勢16についての度合いを質問（情報収集・分析・表現など）
   ※課題を受け取り後、コンテスト前までの取り組みをふまえた回答実施が望ましい
   …課題発表と同時に提示し、コンテスト前までに回答（令和７年度より予定）
4. 競技編：
   コンテスト当日の競技やアピール、質疑応答における12についての度合いを質問+全体としての自己およびチーム評価とその理由
   ※コンテスト前日の説明会で説明し、競技終了後、できるだけ早期の回答が望ましい
   …記憶的要素、進路的要素、全国大会出場などを鑑み一ヵ月以内に回答（令和７年度より予定）

【アンケート結果から見えること（抄）】

・ポジティブな自己評価（S・A・B・C のうち、S と A を合わせた割合）は全体の80.5%〖表1参照〗。
・多くの生徒が「もっとできるようになりたい」という課題意識を持っていた。
・生徒は自身の成長段階を客観的に捉えようとする姿勢が見られた。
・「ためになった」「意義を見いだした」「成長できた」といった肯定的要素が大半を占める中で、取り組みに対し肯定的ではない

コメントもごくわずかながら見られた。

・【競技編】において、自己評価（10 点満点）は 86.6%（5 点以上）66.7%（7点以上）に対し、その理由についての記述のポジティブさにおいて、高度 24.1%中度 17.2%低度 58.6%というギャップが見られた。

・【学習レベル編】において、実際の現場（実習）で実践できる状態=「使える」の平均値は 16.5% に対し、【事前学習編】の「まとめ・表現した」は46.1%というギャップが見られた〖表1参照〗。

・次の傾向のものが4つの編全体において散見された。【学習レベル編】と【事前学習編】においての小質問「終末期の状況において支援する」の数値を比較すると、「知らない・できない」33%と「検討していない」36%という比近値が見られた一方で、「制度やサービスなどの社会資源を活用し支援する」の数値では「知らない・できない」27%と「検討していない」9%というギャップが見られた。

〖表1〗小数点 2 位以下四捨五入

	知らない・できない	知っている・できる	わかる	使える
学習レベル編 28 項目	9.6%	33.6%	40.4%	16.5%
	検討していない	情報を収集した	整理・分析した	まとめ・表現した
事前学習編 28 項目	6.0%	8.3%	39.6%	46.1%
	全くそう思わない	そう思わない	そう思う	強くそう思う
課題検討編 16 項目	3.7%	11.1%	47.1%	38.3%
競技編 12 項目	2.0%	5.0%	27.5%	66.1%
小計	C 5.3%	B 14.5%	A 38.7%	S 41.8%

【まとめ】

今回のアンケートにおいて、生徒の学びを「見える化」することは、発展や改善に活かすための貴重な資料である。今後、継続的に行われるデータ収集と様々な分析や総括により、より効果的な育成指導や教育効果につながることが期待される。

コンテストが教育活動の一環、一つの手段として、「何を身につけてほしいのか」「何が身につき何が身についていないと生徒が感じているのか」「これらを踏まえて、どのように今後に役立てていくか」などを検討する上で根拠の一つになるのではないかと考えられる。

なお、当初は作成者のバイアスがかかったものとならないよう調査データ集計のみにとどめる予定であったが、関係者からのアドバイスもあり、バイアスとならないであろう範囲に留意してまとめた。今後は九州各県の先生方のご尽力により、練度も高まり、分析や総括がなされていくことを期待したい。

【報告資料 QR コード】

https://www.education.saga.jp/hp/kanzakiseimeikoukou/?content=3663

全国福祉高等学校長会「高校生介護技術コンテストのあり方に関する検討会」　検討委員：日髙航成(福岡県)・原慶介(佐賀県)

令和7年度「第27回九州地区福祉高等学校長会総会・研究協議会並びに学科主任等研究協議会」にて配布